

平成 28 年度 第 2 回 学校協議会 会議録

1. 日 時 平成 28 年 12 月 5 日 (火) 18 : 00 ~

2. 場 所 産業高等学校会議室

3. 出席者

(1) 学校協議会委員

産業高等学校元 PTA 会長	池内 美智子
岸和田市中学校校長会会長	小池 俊一
産業高等学校同窓会副会長	杉山 玄道
産業高等学校 PTA 会長	信 貴 政 則
産業高等学校前校長	久井 孝 則 (50 音順)

(2) 学校

校長	楠戸 啓之
全日制教頭 (司会)	西村 元博
定時制教頭	榎本 正広
事務長 (記録)	古谷 利雄
教務部長 (首席)	大西 敦子
商品開発クラブ顧問	稲田 健

4. 次第

(1) 校長挨拶

(2) 会長挨拶

(3) 協議

① 商品開発クラブの現状とこれまでの活動内容について報告

商業科を有する学校として地域企業や地域社会と連携した実践的な学びを目的とし、昨年度 2 月に商品開発クラブの活動を開始。「地産地消」をテーマに地元の「泉だこ」に着目し、本年度実践の場として以下の取組みを行うことが出来た。

●10 月 1 日 (日) 「大漁親子まつり」に出店・販売

(泉州おにぎり・泉だこ天井) 至：岸和田市 地蔵浜

●10 月 23 日 (日) 「魚庭の海づくり大会」に出店・販売

(泉だこ天) 至：岸和田市立浪切ホール祭りの広場

質疑応答

(委 員) これはクラブか。

(事務局) 現在は商業科が管理するクラブとしての活動であるが、成果等を見ながら内容を授業に取り込めればと考えている。

(委 員) 利益が出るとどうなるのか。

(事務局) 現在は利益が出ていないが、今後利益が出た場合の取り扱いについては検討課題である。

(委 員) 企画・開発・製造・販売をすることで、生徒にとっても良い学習になると共に、学校の PR にもなる。非常に良い取り組みである。

(委員) 在學生はこの取り組みを知っているのか。

(事務局) 文化祭Ⅰ部でこれまでの活動と成果を映像で全校生徒に公開、文化祭Ⅱ部ではこれまでの取り組み内容の展示を行い、文化祭来場者の方々へPRを行った。

(委員) 今後更に原価計算等の活用も含めて活動に取り組んで欲しい。

② 広報活動について報告

※全・定とも校内外での取組実績と今後の予定、並びに新たな取組みの報告を行った。

(委員) 受験生と保護者は普通科と専門学科が候補として並んだときはどうしても無難な普通科に流れる傾向に感じられるが。

(事務局) 本校からの進学は殆どが専門学科推薦などの推薦入試。国公立の受験においてもセンター試験を利用せず、年内の早い段階で進路決定することができる。このような専門学科の魅力を保護者、中学生にもっと伝えなければならない。

(委員) 定時制はどうか。

(委員) 「定員割れ」は深刻な問題であり、職員全体で何か考えていることはあるのか。

(事務局) 定時制の魅力を理解して頂くよう、資料として学校生活の様子を映像で作成するなど、説明に工夫を凝らしている。

(委員) 学校側の問題だけではなく、入試制度の問題でもあると考えるが、制度が変更されるまでは待てない状況。定時制の中身を知ってもらう広報活動が必要である。

(事務局) 中学生の卒業予定者数より高等学校定員数の方が多い状況である。今後更に定時制の中身を理解して頂く必要性を感じている。

(委員) 夜間中学校においても、今年度より中学校既卒者の再入学制度が始まったが生徒数は増えない。そのような生徒は高校の定時制の方がよいと考える。

(委員) 大学進学について普通科より有利であると聞くが、そのあたりはどうか。

(事務局) 本校の進学は殆どが推薦入試。国公立大学への進学も専門学科推薦入学等があり有利。中学校訪問や説明会でも積極的にアピールしているが、なかなか伝わらない。

(委員) 大学側が様々な入試制度により生徒を受け入れようとしている事が、受験生に伝わっていない。

(事務局) 今後も引き続き普通科高校には無い「産高」の良さ、進学・就職等将来において有利な点を理解して頂けるよう広報に努めたい。